

明治・大正・昭和初期における山梨県のたばこの(第2報)

— 副食材料を中心として —

山梨県立中根大 ○大飼道子 元山梨大教育 小林豊子

目的 山梨県の副食材料の地域特性を知ることを目的として、明治・大正・昭和初期におけるこれを調査した。この時代の知らぬのは、他地域との交流が未発達、県統計書がこの時代から発行された資料があるなどの理由による。尚、他県との比較を試みた。

方法 1. 資料：明治百年の山梨農業、山梨県統計書(明治16年以降)、岩手県統計書、長野県統計書、新潟県統計書、和歌山県統計書

2. 期別：I期—明治16年～35年、

II期—明治36年～大正11年、

III期—大正12年～昭和12年、

3. 地域別：甲府、東山梨、東八代、西八代、南巨摩、中巨摩、北巨摩、南柳留、北柳留

4. 野菜類(淡色・緑黄色)、獣鶏肉、牛乳、鶏卵、川魚類の1人1日当たり摂取量の試算

結果 1. 野菜類については、1人1日当たり摂取量(II期)が全県平均で約246gであり、中巨摩・東山梨・東八代は300g以上で上位、甲府・南柳留・南巨摩は200g以下であった。2. 上記動物性食材料は、期によって増加するが、III期でも全県平均で約84gであった。3. 岩手・長野・新潟・和歌山の食材料と比較し、地域特性を示す若干の知見を得た。